

# 令和8年度 東京都立小平高等学校経営計画

東京都立小平高等学校長  
松永 今日子

## 1 目指す学校

### ☆スクール・ミッション

「自主」「誠実」「英知」を教育目標に掲げ、互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識に富み、個性と創造力が豊かで活力のある社会に貢献する人材を育成します。国際理解教育を進め、異文化や伝統を尊重する態度を育成し、自国の文化や伝統を重んじる態度を養います。

## 2 教育目標

### (1) 教育目標

創立以来掲げる校訓「自主・誠実・英知」に基づき、生徒が主体的に学び、真心をもって取り組み、深い知性を磨くことで、国際社会・地域社会に貢献できる人材を育成する。

### (2) 教育目標を達成するための基本方針

校訓「自主」「誠実」「英知」に基づき、次の方針のもと教育活動を推進する。

- 国際理解教育を推進し、国際社会に貢献できる生徒を育てる。
- 論理的、実践的な英語力を伸長させる。
- 思いやりの心と高い規範意識をもち、自他を尊重し、共に助け合える生徒を育てる。
- 地域から信頼され、地域社会に根ざした学校としていく。
- 生徒の生命・健康を何よりも優先し、生徒一人一人を本当に大切にしていると生徒・保護者が実感できる教育活動を行う。
- 生徒の進路希望の実現を学校全体で支援し、その実現を図ることで生徒・保護者に喜んでもらえる学校としていく。

## 3 スクール・ポリシー

### (1) グラデュエーション・ポリシー（育てたい生徒像）

教育目標に基づき、卒業までに次の資質・能力を身に付けた生徒を育成する。

#### 【自主 “Independence”】

- ・課題を発見し、計画的に実行・改善できる力をもつ。
- ・失敗を学びに変え、粘り強くやり抜く姿勢を発揮できる。
- ・将来の進路やキャリアを主体的に構想し、挑戦し続けることができる。

#### 【誠実 “Sincerity”】

- ・多様性を尊重し、協働によって価値を生み出せる。
- ・公平性・規範意識をもち、責任ある判断と行動ができる。
- ・地域社会・国際社会に参画し、より良い社会づくりに貢献しようとする姿勢をもつ。

#### 【英知 “Intelligence”】

- ・言語力をはじめ、論理的思考力・数理的思考力・知的探究力を発揮し、文理を横断して新たな価値を創造できる。
- ・科学的な見方・考え方と人文社会的な視点を統合し、複雑な課題を多面的に捉え解決できる。
- ・ICT・AI 活用スキルと国際理解を統合し、持続可能な未来を主体的に構想し発信できる。

### (2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

グラデュエーション・ポリシーの育成を見据え、次の方針に基づいて教育課程を編成・実施する。

#### 1) 探究 × 文理横断

課題設定→情報収集→分析→発表を段階的に深化させ、探究成果を校内外に発信する文化を定着させる。

#### 2) 言語教育（英語・国語）強化

言語運用力を高め、論理的に考え表現する力を育成する

#### 3) ICT/DX の学び

一人一台端末・クラウド・AI・データ活用を通して、個別最適化と協働的学習を推進する。

#### 4) 国際理解教育・交流

TOKYO GE-NET20 の特色を生かし、多文化理解と国際協働の学びを深化させる。

#### 5) 評価と支援

形成的評価と学習支援を一体的に行い、教員間での共通理解を踏まえて学びの改善を促す。

#### 6) 教科横断・文理融合の学びの推進

日常の授業において各教科の学びを関連づけ、文理双方の視点を行き来しながら多角的に課題を捉える力を育成する。

### (3) アドミッション・ポリシー（入学時に求める生徒像）

本校の教育理念・教育目標・グラデュエーション・ポリシーを理解し、次の姿勢をもつ生徒を求める。

- ・働きかけに応じて、自ら考え行動しようとする前向きさをもつ生徒。
- ・他者を尊重し、協働的に物事に取り組む姿勢をもつ生徒。
- ・英語や ICT、国際理解に関心をもち、視野を広げようとする生徒。
- ・言語力や探究的な学びに積極的に取り組む意欲をもつ生徒。
- ・文理の枠を超えて学び、多面的に課題を考える意欲をもつ生徒。

## 2 中期的目標と方策

### (1) 学習指導

- ア 授業を大切にし、基礎・基本の徹底と発展的学習を組み合わせ、思考力・判断力・表現力を育成する。
- イ 英語・数学で習熟度別授業を実施し、個別最適な学びを推進する。
- ウ ICT 機器や一人一台端末を活用し、主体的・対話的で深い学びを推進する。
- エ 読書活動を通じて論理的思考力や集中力を育成する。
- オ 放課後・長期休業中の補習・講習を充実させ、学力向上を図る。
- カ 生徒による授業評価や学校評価を分析し、改善策を反映する。

### (2) 進路指導

- ア 国内大学への進学を基盤とした体系的な進路指導を前提とした上で、海外大学進学を含む多様な進路選択についても、適切な情報提供と指導を行う。探究活動や国際的な学びを生かし、三年間を見通した体系的なキャリア教育を推進し、進路意識を高める。
- イ 外部模試や定期考査の結果を分析し、学年集会や個別指導に活用する。
- ウ 生徒・保護者との面談をきめ細かく実施し、卒業生講演会や進路懇談会を充実させる。
- エ 進路資料を活用し、進学情報を適切に提供する。

### (3) 国際理解教育・国際交流

- ア グローバル人材の育成を目標に、国際社会で活躍できるコミュニケーション力と多角的な視野を養う。
- イ 留学生の受け入れを積極的に行い、異文化理解を深める機会を提供する。
- ウ 語学研修や生徒海外派遣研修を計画的に実施し、実践的な言語運用能力を育成する。
- エ アメリカ・ワシントン州の姉妹校との交流を継続し、オンライン交流や訪問プログラムを充実させる。
- オ 海外修学旅行を通じて、現地校との交流を実施し、国際感覚を育成する。
  - ・台湾現地校との交流を含め、アジア圏での異文化体験を重視する。
- カ オンライン英会話を活用し、日常的に英語でのコミュニケーション力を高める。
- キ STP (Student Teaching Project) を通じて、生徒が英語で授業を行い、読解力やスピーキング力を高めることで、実践的な言語運用能力を育成する。
- ク レシテーション&スピーチコンテストを実施し、コミュニケーション能力を高める。
- ケ 卒業時までには生徒全員が英検 2 級レベルに到達することを目標とし、授業・講習・オンライン学習を組み合わせた指導を実施。
- コ 英語授業の質向上を図り、ICT 活用やオールイングリッシュの授業を推進する。

### (4) 探究活動・DX 推進

- ア 探究的な学びを学校教育の中核に据え、課題解決型学習を体系的に展開する。
- イ 「総合的な探究の時間」を中心に、1 年次から 3 年次まで段階的に探究活動を深化させ、令和 9 年度までを見据え、探究の指導体制・評価方法・発表機会について、完成を目標としつつ、必要な整理と検証を計画的に進める。
- ウ 校内外での発表を重視し、コンテストや学会への参加を通じて、探究成果を社会に発信する文化を定着させる。
- エ 国際的な課題研究を推進し、グローバルな視点で課題解決力を育成する。
- オ DX ハイスクール採択を活用し、ICT 基盤による文理横断型探究を加速する。
  - ・クラウドサービスによる同時参加型授業
  - ・遠隔学習支援で家庭学習を充実
  - ・AI・データ分析による個別最適化学習
  - ・ICT・データ活用等を取り入れ、理数的視点と人文的視点を行き来する探究活動を推進する。
- カ 教員研修や校内研究を通じて、探究指導力を高めるとともに、評価基準の共通化を図る。

### (5) 生活指導・特別活動

- ア 礼節指導、挨拶指導、交通安全指導を徹底し、規律ある生活習慣を確立する。
- イ 奉仕活動やボランティア活動を推進し、社会性・協働性を育成する。
- ウ 部活動の活性化を図り、学習との両立を支援する。

### (6) 広報・募集活動

- ア 学校見学会や体験授業等を通じて、本校の国際理解教育を含む特色を効果的に発信する。実施内容や時期については、受験予定者の実態や学校行事との連動も踏まえ、柔軟に検討する。

イ ホームページを中心とした情報発信を充実させ、本校の教育活動や生徒の取組を分かりやすく発信する。

(7) 組織体制・働き方改革

ア 教科主任会議・企画調整会議を活用し、円滑な学校運営を図る。

イ ペーパーレス化や閉庁日設定による働き方改革を推進する。

ウ 経営企画室との連携を強化し、予算執行・施設改善を適正化する。

3 今年度の取組と方策

国際理解教育については、授業・探究活動に加え、学校行事や特別活動の中に位置付け、教科横断的・体験的に展開する。

(1) 学習指導

ア 創立以来掲げる教養主義を基盤に、全教科でグローバル教育を推進し、多角的な視野、言語能力、論理的思考力を育成し、国際社会に貢献できる資質・能力を養う。

イ 長期休業中に進学を意識した講習や補習的な内容を計画的に実施し、学力の定着を図る。

ウ 生徒の学習状況に応じて必要な個別支援を計画的・効率的に実施し、ICT やオンラインツールを活用して教員の負担軽減と学習効果の両立を図る。

エ スクール・ミッション達成に向け、週ごとの指導計画・シラバスの明確化、校内研修・教科会を通じた授業改善を行い、教員間の相互授業見学を年3回以上実施する。

(2) 進路指導

1年：バランスの取れた学習

- ・一貫したキャリア教育の実践
- ・進路講演会、進路適性検査の実施
- ・探究活動を通じて自己理解を深め、興味・関心を可視化する
- ・海外大学進学を含む多様な進路選択に関するガイダンスを実施し、進路に対する視野を広げる。
- ・学習習慣の定着と基礎学力の確保

2年：目指す進路の明確化

- ・進路講演会、大学説明会の実施
- ・大学見学会、模擬授業への参加
- ・合格者座談会を通じた進路意識の深化
- ・探究テーマを進路選択に結びつける指導（社会課題・学問分野との関連）

3年：進路実現

- ・進路情報の提供と個別指導の徹底
- ・模擬試験の分析→教科会→授業でのフィードバック
- ・個別受験検討会の開催に向けた準備
- ・探究で培った発表・論理的思考力を面接・志望理由書に活用する指導
- ・ICTを活用した学習計画支援と情報共有
- ・海外大学進学を希望する生徒に対し、校内での進学説明会を実施するとともに、出願手続等に関する個別指導を行う。

(3) 国際理解教育・国際交流

ア 授業におけるグローバル人材の育成を推進する。

イ 国際交流活動や留学生受入を通して、多文化理解を深める。

ウ 留学希望生徒への情報提供を行う。

エ 海外修学旅行の実施、希望者への海外語学研修及び生徒海外派遣研修を行う。

＜TOKYO GE-NET20 指定校、海外学校間交流推進校＞

(4) 探究活動・DX 推進

ア 探究2年目として、各教科の指導に探究的な学びを位置付け、課題設定・情報収集・分析・発表の力を段階的に育成する。生徒が自ら問いを立て、協働して解決策を考える過程を重視し、進路や社会課題と結び付けたテーマ設定を支援する。

イ DX・ICT を活用した学習環境のもと、探究活動及び授業において「わかりやすく、定着を意図する」学びを推進する。評価や考査においても ICT を適切に活用し、学習の定着と業務効率化の両立を図る。

ウ 一人一台端末、クラウド環境等を活用し、情報共有や協働的な学びを促進するとともに、教科横断的・文理融合型の探究活動を推進する。

エ 教員間で探究の目的、進め方、評価観点の共通理解を図り、校内研修等を通じて指導力の向上を図る。

(5) 生活指導・特別活動

ア 基本的な生活習慣の確立

- ・ルール・マナー指導、身だしなみ指導
- ・挨拶の励行、時間を守る指導
- ・部活動後の下校指導、校則の見直し

・自殺対策基本法の改正を踏まえ、ホームルームや特別活動等の機会を活用し、S O S の出し方に関する教育及び相談先の周知を計画的に行う。

イ 学校行事への主体的参加

- ・学校行事に主体的に関わる指導
- ・向上心と達成感を育む部活動の活性化
- ・学習を途切れさせない効率的・計画的な活動

(6) 募集対策・広報活動

ア 情報発信の充実

- ・より高い目標に向かって自己管理できる生徒を獲得するための広報
- ・学校見学会、学校説明会、個別相談会の充実
- ・学校説明会での効果的な演出方法の検討
- ・WEB サイトの定期更新と内容充実
- ・中学校や私塾での広報活動の強化

(7) 学校運営・組織

ア 学校運営の方向性共有と業務改善

企画調整会議を柱として教育課程の実施・検証・改善を行い、外部指導員の活用等により、部活動を含む教育活動の充実と教職員の業務負担軽減を図る。

イ ICT・DX の推進

個人情報管理の徹底と執務環境の整備を進めるとともに、学校 ICT の効率的な運用体制を維持・発展させる。

ウ 生徒支援・安全管理体制の充実

令和 8 年度より通級による指導を開始し、「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第三次実施計画」の趣旨を踏まえ、生徒一人一人の特性に応じた支援体制を整える。あわせて、健康管理や暑熱対策を含め、安全で持続可能な教育環境の確保に取り組むとともに、スクールカウンセラーや関係機関等との連携を通じて生徒支援の充実を図る。

不登校や中途退学の未然防止及び早期支援については、生徒指導提要（令和 4 年 12 月）及び「チャレンジサポートプラン」（令和 6 年 10 月）の趣旨を踏まえ、学年・担任・分掌・関係機関が連携した段階的な支援を行う。

生徒の状況把握と見立てを既存の会議体で共有し、必要に応じてスクールカウンセラー等と連携した支援を行う。

4 重点目標と具体的方策

(1) 学習指導

ア 授業改善

- ・「授業で勝負」1 分も無駄にしない授業実践
- ・主体的・対話的で深い学びの充実
- ・デジタル教材等の活用推進
- ・指導教諭による模範授業参観
- ・生徒による授業評価（年 2 回、採用 3 年目までの教員は年 4 回）による課題把握とフィードバック

イ 補講・補習等の取組

- ・授業の質的向上と形態の工夫
- ・チャイム to チャイム授業の徹底
- ・教員相互の授業参観
- ・補習・補講の充実
- ・英語外部検定等を活用し、生徒の英語力の到達度を可視化するとともに、授業や講習等を通じて、段階に応じた指導の充実を図る。

(2) 進路指導

ア 進路指導部主導の計画的指導

- ・高い目標をもたせるための指導体制確立
- ・進路指導力向上に向けた校内研修
- ・生徒情報共有のための資料作成
- ・模試の解き直し指導と分析結果のフィードバック
- ・探究テーマと進路選択の関連を意識した指導
- ・探究で培った論理的思考・発表力を志望理由書や面接に活用する指導

(3) 国際理解教育・国際交流

ア 国際理解教育の推進（TOKYO GE-NET20 指定校）

- ・台湾・アメリカ等との国際交流活動
- ・次世代リーダー育成道場研修生の輩出

- ・海外修学旅行（台湾）
- ・大学や各国大使館等との連携による国際理解事業

#### （４）探究活動・DX 推進

##### ア 探究的な学びの深化

- ・本校は令和 7 年度に探究を本格導入し、令和 8 年度は 2 年目にあたる。
- ・探究 2 年目として、教科指導に探究的な学びを組み込み、課題設定・情報収集・分析・発表の力を育成
- ・教科横断の取組「耕し、種を播き、収穫する」サイクル推進

##### イ 探究活動の発信

- ・校内外での探究発表会の充実、生徒主体での運営
- ・国際課題をテーマにした探究活動を部活動・行事と連動

#### （５）生活指導・特別活動

##### ア 安心して通える学校環境

- ・生活指導統一基準による指導
- ・登下校時のマナー指導、安全教育の徹底
- ・いじめ総合対策【第 3 次】を踏まえた、いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組
- ・身だしなみ指導
- ・スマートフォン・SNS 利用のルール・マナー徹底

##### イ 部活動・学校行事の充実

- ・ライフ・スクール・バランス確保に向けた効率的な部活動
- ・学校行事への主体的参加
- ・「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を参考に、授業、部活動、学校行事を通じて、体力向上及び健康の保持増進に取り組む。

#### （６）広報・募集活動

##### ア 魅力ある学校の広報活動

- ・全教員による広報活動の実践
- ・WEB サイトに学校行事・教育実践・生徒活動を掲載
- ・DX ハイスクール指定校（3 年目）として働き方改革と募集対策を両立
- ・中学校・塾への訪問による広報
- ・学校見学会での中学生対象体験授業
- ・動画による授業紹介
- ・生徒主体の学校説明会・見学会

#### （７）学校運営・組織

##### ア OJT 体制の構築と人材育成

- ・課題共有と PDCA サイクルの確立、AAR サイクル活用
- ・複数担当者制による分掌業務の継承体制構築
- ・経営企画室の経営参画
- ・教職員のライフ・ワーク・バランス推進
- ・男性教職員の育業取得推進
- ・年休取得（年 20 日）の推進

#### 〔数値目標〕

- ① 教員相互授業参観：年 3 回以上（昨年度実績：6 回）
- ② 若手教科研究授業：年 24 回以上（昨年度実績：24 回）
- ③ TOKYO GE-NET 公開授業・校内研修：年 1 回以上（昨年度実績：1 回）
- ④ 講習・補習：35 講座以上／延べ 2,000 名以上（昨年度実績：65 講座／延べ 2,227 名）
- ⑤ 学習時間達成率：1～2 年 20%、3 年 75%（昨年度実績：未達）
- ⑥ 英検 2 級以上合格者：280 名以上（昨年度実績：268 名）
- ⑦ 国公立大学現役合格者：15 名以上（昨年度実績：14 名）
- ⑧ 難関私立大学（含む GMARCH）現役合格者：160 名（昨年度実績：157 名）
- ⑨ 探究発表会：年 1 回以上実施（昨年度実績：1 回）
- ⑩ 探究テーマ設定率：第 1・2 学年 100%（昨年度実績：第 1 学年 100%）
- ⑪ 学校説明会来場者数：4,500 名以上（昨年度実績：6,310 名）
- ⑫ 部活動加入率：第 1 学年 100%、第 2・3 学年 90%（昨年度実績：第 1 学年 87%／第 2・3 学年 97%）
- ⑬ 生徒満足度：85%以上、保護者満足度：90%以上（昨年度実績：生徒 89%／保護者 94%）